まちづくり円卓会議報告書

（平成 25 年 2 月 21 日開催）

西東京市市民協働推進センター

目　次

1.　開催概要　3

2.　基調講演資料　5

3.　模擬円卓会議メンバー紹介　9

4.　講演、模擬円卓会議の模様　11

5.　模擬円卓会議での議論　11

6.　アンケート結果（抜粋）　13

7.　振り返り　14

１．開催概要

1.1. 開催目的

市民協働推進センター「ゆめこらぼ」では、地域連携促進事業の新規事業として、多様な立場の関係者が集い、西東京市の地域課題解決について、どのように協働し解決につなげるかを協議するための場をもつこととし、大要下記の通り『まちづくり円卓会議～西東京市のまちづくりを考える～』を開催することとした。

第１回目となる今年度は、講演をいただいた後、講師の指導のもと、「居場所づくり」をテーマに円卓会議を行った。

1.2. 開催概要

① 日時　平成 25 年 2 月 21 日（木）　14 時～16 時 30 分（集合：13 時）

② 会場　コール田無・多目的ホール

③ 講師　横田能洋さん（茨城 NPO センター・コモンズ常務理事）

④ 内容　講師による講演の後、「居場所づくり」をテーマに円卓会議

14 時 00 分　開会挨拶

14 時 05 分　第 1 部　基調講演　横田能洋さん

演題　『地域円卓会議の可能性』

14 時 45 分　休憩

14 時 55 分　第 2 部　円卓会議『西東京のまちで居場所づくりを！！』※

ファシリテーター①横田能洋さん

会議メンバー　②田無公民館　星野美津子さん

③ほっとするまちネットワークシステム

かたらいの場チャオ　鈴木みどりさん

④社会福祉法人　悠遊　泉町地域包括支援センター

名倉直子さん

⑤社会福祉協議会　利光有紀さん

⑥児童館：ＮＰＯ法人子どもアミーゴ西東京

小松真弓さん

⑦企業：おとなりさん。小金井公園

岩崎智之さん

16 時 25 分　閉会挨拶・アンケート記入

※ 傍聴者数　32 名（他市からの参加者 3 名）

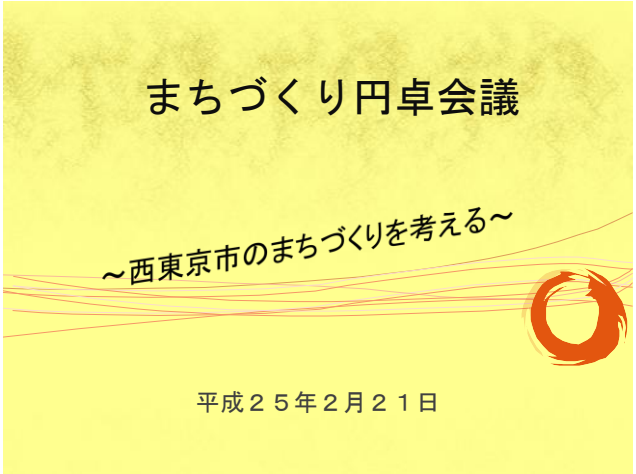
※ 公民館で考えている取組みの紹介を皮切りに、会議メンバーに『どんな居場所が必要か』を話し合っていただく。

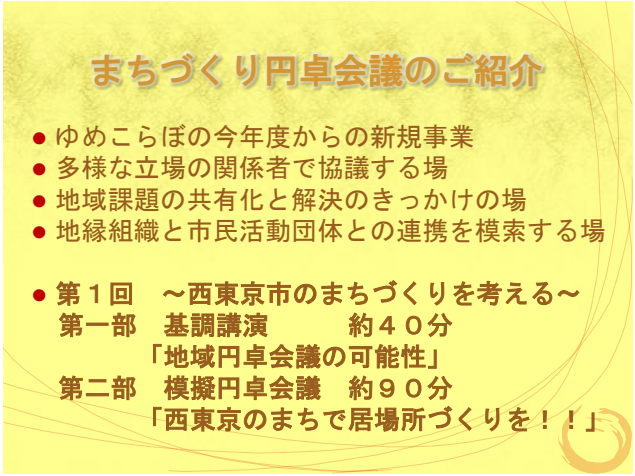
ゴールは、立場や組織を超えて課題解決のために、どのような連携が可能か、そのための活動のアイデアを出していただく。

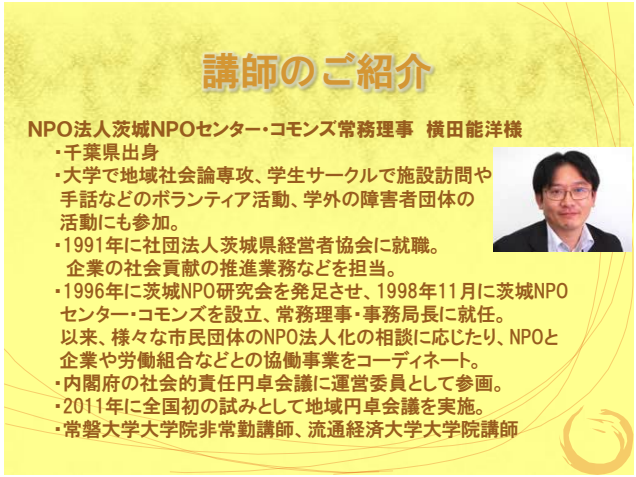
そのアイデアの検討・実現に必要な組織・人材を次回の会議に招くこととして閉会する。

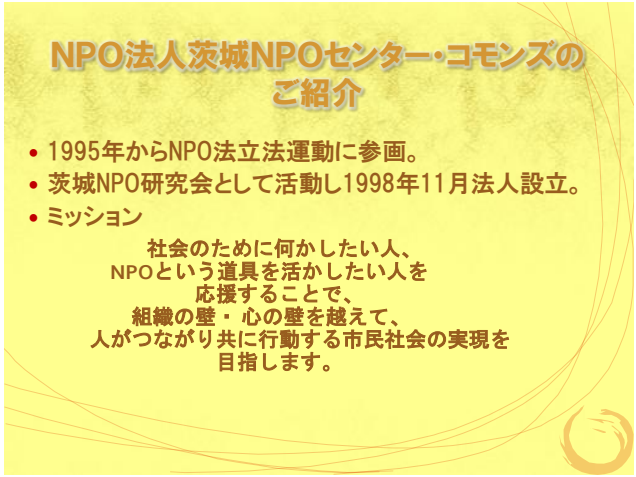
1.3　傍聴者数：32 名（他市からの参加者 3 名）

1.4　講師及び所属団体の紹介資料









２．講演資料

「地域円卓会議の可能性」

茨城NPOセンター・コモンズ　横田能洋
http://www.npocommons.org

「SR：社会的責任」で問われていること

法令順守だけでは、社会の持続性が危うい

「私・わが組織には関係ない」と決めつけないこと

事業体は、社会面・環境面の配慮を業務に統合すること

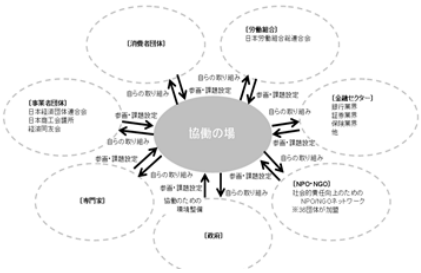
利益を還元すること　＜　どのように利益をあげるか

SRとは　社会を学ぶこと、社会への洞察力が重要

- 法や制度面での義務はないが、ステークホルダーと自組織の間で起きている社会課題について、このままでよいかを考え、判断し、実行するプロセス。
- その判断に際してステークホルダーと対話したり、協働することが重要になる

社会的責任に関する円卓会議

安全・安心で持続可能な未来に向け、事業者団体、労働組合、NPO・NGOなどの広範な主体が参画し、政府だけでは解決の難しい課題に対し、参加主体が自ら行動することで解決していく枠組み。平成21年3月、政府、事業者団体、労働組合、NPO等、消費者団体、学者等の発起人の署名により設立以降、政府はメンバーの一員として参画



3

地域円卓会議開催までの経過

22年9月　**SR円卓会議**で、22年度モデル事業として**地域版円卓会議**の実施が決まり、**茨城**が開催候補地に選ばれた。

選ばれた理由
各セクターの協働でNPOフォーラムを10年以上開催し、その中から**「地域のパートナーシップを拓くSRネット茨城」**ができていた。

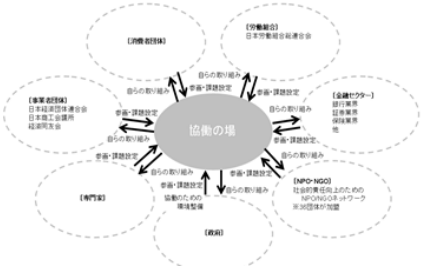
そこで、毎年開催してきたNPOフォーラムは、22年度は**地域円卓会議in茨城**として開催することになり、SRネット茨城が円卓会議の実行委員会になった。

地域のパートナーシップを拓く SRネット茨城の目的

- 企業・労組・経済団体・NPOの関係者が集い
- 組織の社会的責任や地域貢献に関する情報を交換できる場を設け
- それぞれの活動のレベルアップを図り
- 地域の課題解決に向けた相互の連携と活動の発展を促し、
- 組織や地域の価値を高める。

社会的責任に関する円卓会議

安全・安心で持続可能な未来に向け、事業者団体、労働組合、NPO・NGOなどの広範な主体が参画し、政府だけでは解決の難しい課題に対し、参加主体が自ら行動することで解決していく枠組み。平成21年3月、政府、事業者団体、労働組合、NPO等、消費者団体、学者等の発起人の署名により設立以降、政府はメンバーの一員として参画



6

SRネット茨城の活動状況

・NPOフォーラム共同開催（2000年から）
・フォーラム実委メンバーでSRネット設立（2009年）
・ISO26000学習会　（2010年～）
・地域課題の検討
「耕作放棄地問題」「外国人児童教育問題」
・茨城でのフードバンク設立（2010年9月～）
・地域円卓会議の企画運営（2011年2月18日～）
・東日本大震災でのホープ常磐プロジェクト

円卓会議のゴールのパターン

・課題の存在と、それぞれの立場、活動を知る。
・課題への各立場の考えをきき、課題への理解を深め、課題を共有する。
・課題解決のためになる活動のアイディアを出す
・課題に関わる新たな仲間を増やす
・各主体の具体的役割、目標を合意する
・事業の持続についての責任感を共有する

地域での円卓的協働の仕掛け方

立ち上げ方は2パターン

パターン1　事業テーマ（地域課題）があり、それに
かかわりそうなキーパーソンに集まってもらう
（現状共有はしやすいが、協働につなげるには新たな事業の企画力がいる）

パターン2　多様なメンバーに集まってもらい、そのメン
バーで協働できる事業を考え、組み立てる

（関心が重なるテーマを選び、各組織の特性が生きる今までにない事業を作りこみ、さらにメンバーを仲間にし、本気にさせる仕掛け人（グループ）がいる

議論の枠組みづくりのプロセス

協議テーマについて協議し3つに決定

・生協が提案した**「農業の支援と新たな仕事づくり」**
・NPOが提案した**「新しい公共を広げるための地域資源循環」**
・商工会議所が議論してきた**「買い物支援や外出支援」**

それぞれに関係しそうな組織や活動事例のリストアップを行い、実行委員会が推薦した人や組織に協議者就任を依頼

議論のストーリーや落としところをどうするか・・・
「議論がどこにいくか不安だが、様々な立場、実践が融合する中で想定外の化学反応が生まれるプロセスが円卓の醍醐味」

との意見に実行委員が賛同。プレ会議を2回を行って、議論の下地をつくることに。

議論の枠組みづくりのプロセス

協議テーマについて協議し3つに決定

・生協が提案した**「農業の支援と新たな仕事づくり」**
・NPOが提案した**「新しい公共を広げるための地域資源循環」**
・商工会議所が議論してきた**「買い物支援や外出支援」**

それぞれに関係しそうな組織や活動事例のリストアップを行い、実行委員会が推薦した人や組織に協議者就任を依頼

議論のストーリーや落としところをどうするか・・・
「議論がどこにいくか不安だが、様々な立場、実践が融合する中で想定外の化学反応が生まれるプロセスが円卓の醍醐味」

との意見に実行委員が賛同。プレ会議を2回を行って、議論の下地をつくることに。

円卓会議の効果

・1社ではできないことについて共同歩調をとるためのルールをつくる
・人の動きを変える（市場をつくる）きっかけをつくるための協力する。
・新たなサービス・事業のための仕組みをつくる
・事業の壁（制度・財源など）を乗り越えるため知恵、力を集める
・バラバラな活動では広報や効果が弱いときに、相乗効果をねらって共同キャンペーンを行う

もうひとつのねらい

・既存の議論の枠を超えて議論をし、熱くなる人を生み出す。
それぞれが当事者になる。
自発的に、皆で話し合ったことを具体化させるべく動き、産みの苦しみと達成感を共に味わうことで、困ったときに相談ができる関係性（仲間）をつくる。

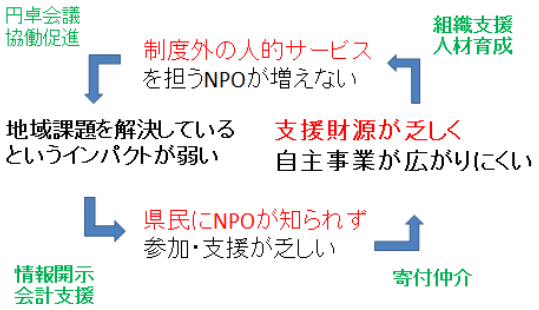
震災支援時のコラボレーション

- 北茨城といわきのNPO　現地情報の提供
  支援先との調整
- 労働者福祉基金協会　活動拠点の提供
- パルシステム茨城　物資倉庫　の提供
- 茨城県生協連合会　炊き出し
- つくば市民大学　物資収集時の拠点
- 経営者協会・連合茨城　支援物資の呼かけ
- 茨城新聞・茨城放送　支援活動の紹介
- 社会福祉協議会　バス貸与　広報協力
- バス会社　ボランティアバス運行

討議によって市民社会を広げよう

	参加	関係	可変性	創造性
市民社会 COMMONS 貢献活動 ファインプレー	・自らを開き、力を持ち寄る ・自らの利害を超えられる	・仲間関係 ・お互いさま ・対等な関係	・自発的に活動 ・役割は変わる ・不安定	様々な人が自由な対話で新しいアイディアを生み出せる。
組織社会 本業活動 やって当たり前	・組織を守る、閉じた関係 ・組織の利害や責任を重視	・契約関係 ・取引関係 ・上下関係 ・競争関係	・自由は制限 ・役割は固定的 ・安定性は高い	メンバーが固定化しやすく新しいアイディアが出にくい。
国 義務活動 必ず行う	・国益を重視	権利と義務の関係	法に従わなければならない	決定権を持つ人が決まっている

地域のNPOの4つの課題



バスが利用しづらく　街歩きがしにくい街は
ますます人が寄り付かない街になる

行政
公共交通の利用
促進や地域のバリア
フリー化を進めたい

特別支援学校
生徒の作品の展示・販売
の拠点を街中におきたい

バス会社
移動困難者に低床バ
スを利用してほしい

祭りの際に、
外出の機会を
つくろう

高校生
何かボランティアしたい

大学
バリアフリーの研究
で協力したい

商工会議所
バリアフリーマップを
集客につなげたい

飲食店
改装したトイレを利
用してもらいたい

タウンモビリティ

困ったこと　こそ　対話の機会

- 市や地域が困っていることこそ、真剣に考え知恵もでる
- 一方的に要求したり、一方的に結論を出すのではなく、問題を素材にして共に話す
  （〇〇禁止、〇〇は閉鎖　と決める前に）
- お客様扱いから　問題解決の当事者へ
- クレーマーからパートナーへ

対話＋相手を知る＋共に実験

何らかの市民からの問い合わせ・提案

前例がない
うちが対応すべきこと？
対応すると仕事が増える
判断したら責任問われる

ユニークな人がいるものだ
市民のためになる提案か
この人は自らも動くか
上司や他課も協力してくれそうか

それはできない、とだけ伝える

どうしたらできるか、共に考えましょう、と伝え、チャンスをつくる

市民はあきらめ無関心になる

市民は本気になって企画、実践

変化は起こらず、担い手も育たない

担い手、パートナーが増える

協働に至るステップ

・課題の関係者が互いの考えや取組みを知る
↓
・その課題の当事者であることの確認
↓
・共にテーブルについて協議することの確認
↓
・何らかの取り組みで協力することの確認
↓
・具体的に何をし、同役割分担するか決める

協働に至るまでの壁

・課題の関係者が互いの考えや取組みを知る
（関心をもってもらえず場にこない）
・その課題の当事者であることの確認
（他がやることと捉え自らは動こうとしない）
・共にテーブルについて協議することの確認
（ゴール、位置づけに納得せず席につかない）
・何らかの取り組みで協力することの確認
（自組織内部で方針がつくれないので保留）
・具体的に何をし、同役割分担するか決める
（人や労力など負担できない）

壁の乗り越え方　その1

（関心をもってもらえず場にこない）

テーマが、相手の活動に関わることを説明
メンバーで関心をひく(こういう人にあえる)
今、集まることの重要性、メリットを説明
課題を感じていそうな人、話ができる人を探す

（他がやることと捉え、動こうとしない）

他地域での同じような組織の関与事例を示す
他もやるが、あなたも当事者とねばり、
その人が動きやすくするための理由、材料を用意

壁の乗り越え方その2

（ゴールや会の位置づけに納得せず席につかない）

・他に似た動きがあると敬遠されるので、違いを示す。
・ゴールが不明確だといわれたら、できるだけ見通しを示す。
・縛られたくない様子なら、合意の仕方や範囲、役割を示す。
・他のメンバーを前向きにさせることで、外堀を埋める。

（自組織内部で方針がつくれないので態度保留）

・何がネックで動けないかをきき、共に突破口を探す
・実績をつくってみせて、参加しやすい状況をつくる
・行政は、基本計画に盛り込まれるよう働きかける
・決められる立場の人に直談判
・上部組織や議会の力を借りて後押ししてもらう

コーディネーターとしての心得

- キーパーソンとの出会いを大事にする。
- 何か試みてる相談者の役に立ち、つながっておく
- メンバーのいい組み合わせをつくり、まきこむ
- 閃いたら、成功体験を味わえそうな事業をデザイン
- メンバー同士の交流を促す
- 協力者を誘い込み、輪を広げる
- 不安や壁を乗り越えることは、仲間としての一体感を増すチャンス(ここが頑張りどころ)
- メンバーのアイディアをできるだけ活かす。
- 火を消さないよう次の展開を考え場をつくる。

３．模擬円卓会議メンバー紹介

●岩崎　智之氏
おとなりさん。小金井公園
http://ameblo.jp/otonari30
〒202-0023 西東京市新町６丁目 11-16
TEL:0422-27-8465　FAX:0422-27-8475

介護事業所の枠を超え、開かれた「おとなりさん。」を目指し、地域のお役に立ちたいと考えております。
「ちょっと、おとなりさん。家に行って来るね！」という感覚で、ゆったりと落ち着ける心地よい「居場所」として、皆様をお待ちしております。

●小松　真弓氏
子どもアミーゴ西東京
http://kodomoamigo.org/
〒188-0004 西東京市西原町 1 丁目 5-13
TEL：042-478-0056

学童クラブに子どもを通わせていたお父さん、お母さんが集まって作った団体です。
2007 年 4 月～放課後の子どもの居場所として学童クラブを運営。2011 年 4 月からは、児童センターを運営しているので、0 歳から 18 歳未満の子どもや子育てをしている大人たちの居場所にもなっています。
また、私たち団体の理事や関わってくれる大人たちは、「楽しいよね」「気持ちがいいよね」を共感し「子どもと汗を一緒にかく」が、出来る大人集団です。

●鈴木みどり氏
かたらいの場チャオ
〒188-0011　西東京市田無町５丁目 5-12
（田無総合福祉センター）

昨年西東京市ほっとネットステーション主催の『地域の居場所づくり講座』受講の卒業生有志により誕生しました
だれもが自由に過ごせる場所としてたくさんの人に知っていただけるよう、手づくりのチラシ作成をし、チラシ配布をしたり、市の掲示板を利用しています。

●利光　有紀氏
社会福祉協議会（ほっとネットステーション）
〒188-0011　西東京市田無町５丁目 5-12
（田無総合福祉センター）

住民からのお困りごと（福祉や年代にとらわれず、どんな問題でも断らない）を受け付け、住民と共に解決に結び付けることが仕事です。
西東京市を四つの圏域に分けて、一名ずつ配置される計画になっています。西東京市地域福祉計画により実施されている事業で、社会福祉協議会が受託し、運営しています。
社協独自の事業ふれあいのまちづくり（市内に 20 か所の小地域活動）と連携しながら、地域づくりに取り組んでいます。

●名倉　直子氏
社会福祉法人悠遊　泉町地域包括支援センター
http://www.you-you123.com/
〒202-0011 西東京市泉町 3 丁目 15-28
TEL:.042-424-8106(代表)FAX:.042-425-2662

「一人ひとりが人間としての尊厳を保ち、その人が自分らしく暮らすことができるように、支援する」という理念のもとに事業運営しています。デイサービス、訪問サービス（ヘルパー派遣）、支援サービス（ケアマネジャー）、グループホーム、認知症対応型デイサービスを運営し、泉町地域包括支援センターを市から受託しています。
「地域のネットワークづくり」に力を入れています。法人内にある地域密着型事業（グループホーム、認知症対応型デイ）と協力し、また、地域の方々の力をお借りして、地域の居場所づくり、出張相談、認知症サポーター養成講座、ささえあい協力員・協力団体の拡充などを行っています。

●星野美津子氏
田無公民館　あめんぼ青年教室
〒188-0012　西東京市南町５丁目 6-11
TEL:042-461-1170 FAX:042-468-1313

知的に障がいのある人を対象にした公民館の主催講座です。創作、音楽、料理、スポーツ、館外活動を通して、自主性、社会性の育成を行っています。学級生もボランティアスタッフも共に楽しむことをモットーにしており、活動中は笑い声が絶えません。
学級生が主体的に活動していて、活動内容を自分たちで考え、準備をし、運営しています。
公民館で活動することで地域と繋がり、社会を構成する一員としての自覚を持つことを目指しています。

４．講演、模擬円卓会議の模様

基調講演は「地域円卓会議の可能性」。
横田氏は、茨城県での実践例やその効果などについて説明されました。

円卓会議のテーマは、「居場所づくり」。
議論の流れは、周囲からも見えるように模造紙に板書されました。。

多様なメンバーが集い、話し合うことで広がっていく可能性を実感。

模擬円卓会議はフィッシュボール形式で実施。会議メンバーを囲んで、参加者も議論を熱心に傍聴しました。

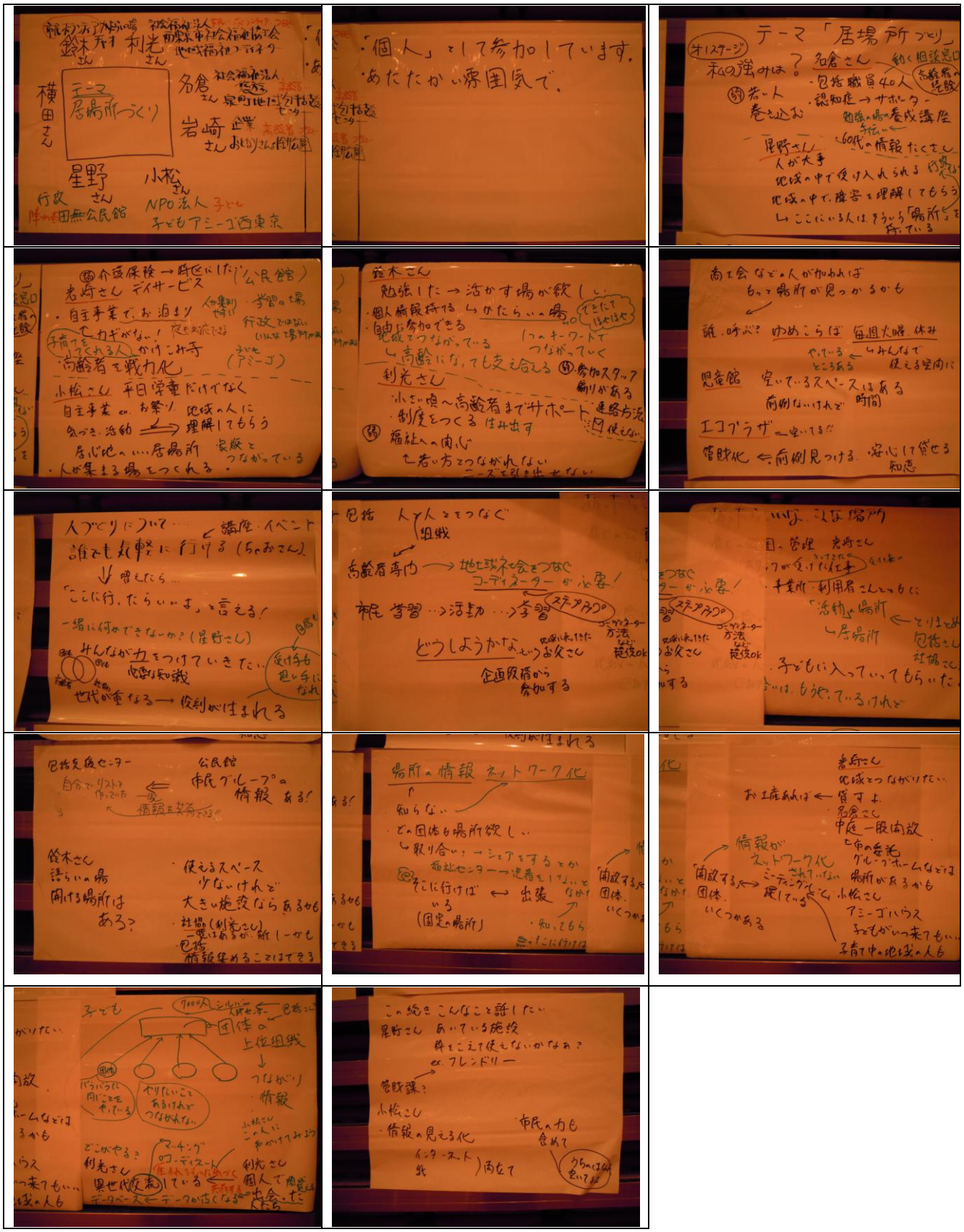
５．模擬円卓会議での議論

5.1　議論の流れ

テーマ：「居場所づくり」

１．私（所属する団体）の強みと弱みについて
２．この場に呼びたい人について
３．人づくりについて
４．「あったらいいな、こんな場所」について

5.2　議論の板書


テーマ
居場所づくり
「個人」として参加しています。
あたたかい雰囲気で。
テーマ「居場所づくり」
介護保険→地区にはない
人づくりについて
誰でも気軽に行ける
どうしようかな
場所の情報 ネットワーク化
情報がネットワーク化されていない
上位組織
つながり
情報

６．アンケート結果（抜粋）

6.1　基調講演について

・「円卓会議」がどのようなものか、どのように実践していくのか詳しく知ることができた
・茨城の活動についても詳細を聞きたかった
・円卓会議メンバーの選定の仕方や一般市民がどうなっているのか知りたかった。
・マイクの調子が悪く、声が聞き取りにくかった。

6.2　模擬円卓会議について

・横田さんのファシリテーションが勉強になった。
・テーマに対して共感できる人たちばかりなのでスムーズに進んだ。
・活発な議論がされ、見ていて引き込まれました。
・時間が少なく話したりなかった。
・円卓会議メンバーの方々の活動を知り、良かった。
・誰をメンバーにするか、コーディネイターの力量、参加者の思考のフレーム、傾聴力により成果が左右されると感じた。
・継続してほしい。
・円卓会議をやっているというポーズやガス抜きにならぬように。
・地域のつながりを作っていくには、ステイクホルダーが集う円卓会議が欠かせないと思う。社協が音頭をとるのがよいのでは？

6.3　全体を通しての意見

・試行的な意義は大きかった。
・市の総合計画に反映する道があればいい。
・メンバーの選択が課題。
・傍聴者も意見を出しやすい環境にすると良いと思う。
・初めは戸惑いが感じられたが、最後には積極的な意見が盛り上がってきて対話の大事さを感じた。
・いかに市民を巻き込むか課題。
・継続した方が良いと思う。
・アウトプットの活用も大事と思う。
・より有効に進めるための技法を積み重ねによる手法や人材育成の蓄積と思う。

6.4　次回円卓会議で取り上げて欲しいテーマ

・NPO 的な地域活動グループの連携方策
・地域福祉活動について
・地域で子育て
・20 代の若者が自分の住む街について考えることをいかに促すか

・老人問題、生活保護と就業サポート、無縁社会
・絞ったテーマ。
・住みやすい町とは
・円卓のメンバーを広げて議論を深める

７．振り返り

模擬円卓会議メンバーは、当日初めて一同に会したにも関わらず、横田氏の巧みなファシリテートにより、徐々に緊張感も解けて途中からは活発な意見が飛び交う展開となった。

時間の関係で会議傍聴者からの意見等を十分に聞くことはできなかったが、「居場所」をテーマにした議論への市民の関心は高いことが伺われた。

今後も、「地域円卓会議」の手法で話し合いを進めていきながら、多様なステークホルダが関わることでの醍醐味のある課題解決へとつなげていきたい。